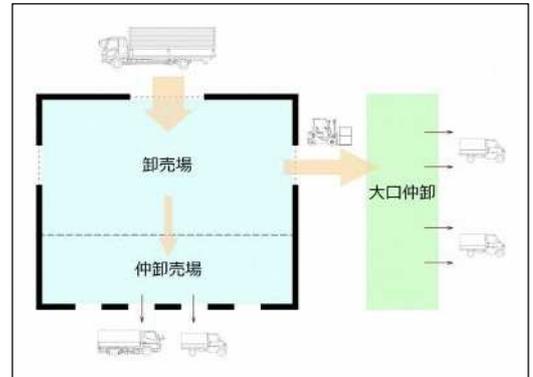


### ①青果部物流動線について

#### ●適切な施設配置による効率的な物流動線の整備

現状の卸売場から仲卸売場への荷の流れは、大口仲卸への流れとそれ以外の仲卸への流れの2つがある。

大口仲卸に流れる荷の量が卸売業者の仕入れの約半分を占めており、現在の大口仲卸の配送施設は取扱量に対し十分な規模ではない。また配送施設が卸売場から離れた位置にあるため、非効率的な物流動線となっている。そのため大口仲卸は、新しい卸売場の付近に自主整備で配送センターの設置を考えており、設置可能な空地を求めている。



(図) 青果部物流イメージ

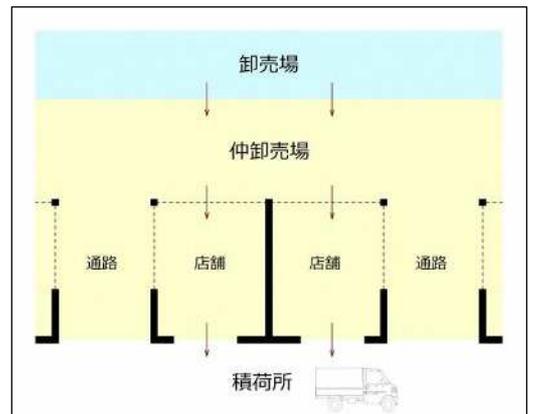
空地確保のためには、市場全体の整備の中で、配送センターの設置を考慮した土地利用が求められる。

#### ●仲卸売場内の物流の効率化

現状、仲卸売場の店舗は建物内の通路に面しており、商品の出荷時は通路から外へ運び出して積荷を行っているが、売場から積荷までの動線を短くするために、大口以外の仲卸業者は、配送用トラックを直接接続できる店舗配置を求めている。

また、各仲卸店舗間に通路をはさんだ配置とすることを望んでいる。

配送用トラックを直接接続するためには、仲卸店舗を外部に面して一列に配置することが考えられる。



(図) 仲卸店舗配置イメージ

#### ●仲卸荷捌き所・加工所整備のための空地の確保

仲卸業者の中には仲卸用の荷捌き所・加工所の整備を求める声もあり、新たな仲卸売場に隣接して組合が自主整備で設置できる空地进行を望んでいる。

このためには、市場全体の整備の中で、仲卸売場に近接して荷捌き所・加工所が設置可能な空地进行を確保できる土地利用が求められる。

## ②水産物部物流動線について

### ●物流基地としての配送センター機能の確保

現状、卸売業者が扱う荷は、卸売場から直接配送されるものと、仲卸売場へ流れるものの2つの動線となっている。

卸売業者は、直接配送している量販店との大口取引への対応として、卸売場内にコールドチェーンに対応できる配送センター機能の設置を求めている。

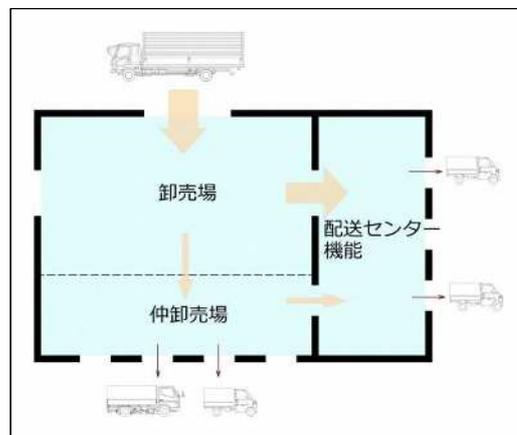
また、配送センター機能を仲卸業者も利用することを卸売業者は考えているが、運用について仲卸業者との意見一致に至っていないため、今後各業者間の調整が求められる。

温度管理できる配送センター機能を設置する場合は、売場を閉鎖型とし、温度管理に対応できる仕様や設備が求められるが、整備費、ランニングコストが増加することが考えられるため、範囲や仕様、設定温度等について今後各事業者による検討が求められる。

### ●仲卸売場内の物流の効率化

仲卸業者においては青果部同様、積荷までの動線を短くして物流の効率化を図るために、配送用トラックを直接接続できる店舗配置が望まれている。一方、客が通路から店舗内を見て買い物ができることも考えておく必要があるとの意見もあり、業者によって商売の仕方が異なるため、店舗配置については業者間での意見調整が必要との考えである。

配送用トラックを直接接続する場合は、仲卸店舗を外部に面して一列に配置する必要があるが、各店舗の商売事情を踏まえて、今後事業者間による検討が求められる。



(図) 水産施設物流イメージ